

Organization and Progressing of Media During
Wartime in Japan : Total Contents of "GENTI
HOKOKU" Published by
BUNGEISHUNJYUSHA(1)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-07-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 掛野, 剛史 メールアドレス: 所属:
URL	https://saigaku.repo.nii.ac.jp/records/624

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



戦時期メディアの編成と展開

— 文藝春秋社発行『現地報告』総目次（上） —

掛野剛史

『現地報告』は一九三七年八月から一九四三年四月まで、文藝春秋社より発行された全六七冊の雑誌である。ただ、創刊およびその後の展開については複雑な経緯を辿った雑誌であり、若干の説明を要する。そもそも「創刊」というが、この雑誌に一卷一号は存在しない。当初は『文藝春秋』の臨時増刊号として発行され、本誌と共通した巻号を持っていたからである。その後、定期増刊号として毎月発行となったが、その際、表紙に記されていた数字が通号のような形となり、それが廃刊まで通された。本誌と共通巻号は三一冊目

＝三一号まで続いたが、四〇年五月、『話』（一九三三年創刊）に統合された際、その巻号を継承し、三二号が八巻六号となった。この時『話』を改題する形で誌名が正式に『現地報告』となる。これは用紙統制へ対応するための統合だったが、その甲斐もなく四三年四月号をもって最終的に廃刊となった。

したがって正確に言えば『現地報告』という雑誌名は、「臨時増刊」が月刊化した三八年五月以降か、『現地報告』が正式誌名となった四〇年五月以降に発行されたものを指すのが適切かもしれない。巻号も『文藝春秋』本誌に属するものと、『話』を継承したものの二種

類ある。だが通号は一貫しており、内容面からみても『現地報告』として一括して扱う方が意味がある。本稿では前後二種類の雑誌をまとめて『現地報告』と呼び、その総目次を掲載する。ただ紙幅の関係上、『話』に統合される前の三一号までとし、それ以降については（下）として別稿を用意し、詳細な考察を行いたい。

以上のような不規則な形で発行された『現地報告』だが、当初増刊号として「創刊」されたものが、時局の展開に即して定期刊行になり、最終的には戦時期の用紙統制のため統合、廃刊となるなど、戦時期のメディアがどのように時局に対応した、または翻弄されたかという問題の一端を明らかにする重要な雑誌であり、稿者の関心もそこにこそある。紙幅の都合で目次の掲載にとどめざるを得ないのが残念だが、『文藝春秋七十年史』にこの雑誌の細目が掲載されていないためか、著名な雑誌でありながら、これまであまり検討がなされてこなかった雑誌であることは確かであり、今後の多方面からの研究のための基礎的資料として、本稿の意義は少なくないと信じ

Table with 3 columns: Issue No., Title, Date. Includes sections like 『発行日巻号（一覧）』, 『文藝春秋』, 『現地報告』, and 『文藝春秋』臨時増刊.

67 11巻4号43年4月6日
（注）確認した三冊ともに奥付には11月15日発行と記載されておいたが、発売広告からみて、10月15日発行の誤植かと思われる。

本目録は、文藝春秋社から発行された雑誌『現地報告』の総目次である。本稿ではそのうち、『文藝春秋』本誌の増刊として発行されていた時期（一九三七年八月〜一九四〇年四月）の総目次を掲載した。

総目次の作成にあたっては当該号の目次を参照した上で、すべて本文から採った。肩書、著者名、開始頁、終了頁の順に並べて示した。
・複数の文章にまたがる総題とみせるものは最初に掲げた個別のタイトルは行替えた上で一字下げて示した。ただし一頁のみなど短い文章はその限りではない。
・総題は本文に拠ったが、目次での分類も参照した。
・副題については、本文表記にかかわらず、すべてタイトルの後に「―」を付けて続けて示した。
・著者の所属や肩書を示すものは、本文の著者名に記載されているもの限り、文末などの記載は採らなかつた。
・小説、詩などについては、題名から判別しづらい場合は題名の下に（＊小説）（＊詩）と記した。
・表記は原本通りとしたが、旧字体については一部現行通用の字体に改め、明らかな誤植は正した。
・本文に個別タイトルのないものは、目次等を参照して付け（―）で記した。

『文藝春秋』臨時増刊 一五巻九号 一九三七年八月一日発行

Table with 3 columns: Title, Author, Page No. Includes entries like 原絵, 支那の真意, 支那の警告, 支那の将来, etc.

抗日運動の現段階
世界は事変をどう見たか
忽ち成る国家総動員の体制
支那共産党最近の動向
蔣介石の機密室
国民政府の資金網
怖るべき「抗日教科書」の内容
北支事変と九国條約
支那を喰ふ欧米諸国の利権
日本の対支権益
支那に踊る列強のスパイ
北支事変と日支條約
支那は事変を如何に宣伝したか―東戦は近いが存亡懸念は強い

波多野乾一
山崎進之助
伊達圭介
田中正義
山上正義
村上正義
梶原勝三郎
御手洗辰雄
古城風秀
大平進一
山内保
工藤貞雄

陸軍省新聞班編
文藝春秋編輯部編
S・V・C
平野孝児
佐山英太郎
村松梢風

中村研一
高橋三吉
池崎忠孝
藤澤親雄
大久保弘一
伊藤正徳
船田中
諸家（16名）

加藤久米四郎
原勝
中村伸康
後藤和夫
下島連
角田三郎
三輪孝三
稲村順三
長谷川一
小島精一
吉岡文六
三島康夫

加藤久米四郎
原勝
中村伸康
後藤和夫
下島連
角田三郎
三輪孝三
稲村順三
長谷川一
小島精一
吉岡文六
三島康夫

加藤久米四郎
原勝
中村伸康
後藤和夫
下島連
角田三郎
三輪孝三
稲村順三
長谷川一
小島精一
吉岡文六
三島康夫

加藤久米四郎
原勝
中村伸康
後藤和夫
下島連
角田三郎
三輪孝三
稲村順三
長谷川一
小島精一
吉岡文六
三島康夫

加藤久米四郎
原勝
中村伸康
後藤和夫
下島連
角田三郎
三輪孝三
稲村順三
長谷川一
小島精一
吉岡文六
三島康夫

瀕泣して太原を離る	大谷龍記者	陸詒	116
重慶還都の意義	上海を繞る國際取極の解決	中保与作	122
松井声明と租界問題	上海の海関と関稅問題	関島泰雄	130
支那のタリクホリス白崇禧物語	支那風土記・四川省	仙波泰雄	138
支那風土記・四川省	極東における独伊の經濟發展史	吉岡文六	144
支那のタリクホリス白崇禧物語	慘憺たるソ連民衆の生活	梶原勝三郎	151
支那のタリクホリス白崇禧物語	支那農民の生活	座間美郎	158
支那のタリクホリス白崇禧物語	南京政府の要人は何処へ行く	長野朗	164
支那のタリクホリス白崇禧物語	日ソ相廻の將來	山上正義	174
支那のタリクホリス白崇禧物語	シベリヤ鐵道沿線スケッチ	竹尾式	182
支那のタリクホリス白崇禧物語	上海のグリムプス	除村吉太郎	191
支那のタリクホリス白崇禧物語	北支工作の將來	三浦逸雄	198
支那のタリクホリス白崇禧物語	政治工作	河野密	204
支那のタリクホリス白崇禧物語	文化工作	太田宇之助	209
支那のタリクホリス白崇禧物語	經濟工作	勝田貞次	214
支那のタリクホリス白崇禧物語	大本營を繞る問題	野村重太郎	220
支那のタリクホリス白崇禧物語	支那に於ける猶太財閥	丸川賢太郎	225
支那のタリクホリス白崇禧物語	天佑の生還	日貝整一	237
支那のタリクホリス白崇禧物語	世界情報	長谷川了	244
支那のタリクホリス白崇禧物語	長期戦と株式投資	其角亭主人	251
支那のタリクホリス白崇禧物語	応召者の債務と現行法	神道寛次	259
支那のタリクホリス白崇禧物語	事変単語帖		277
支那のタリクホリス白崇禧物語	編輯後記		283

『文藝春秋』事変・第六増刊

表紙	一六卷三号	一九三八年二月一日発行	
須く堅忍持久せよ	小坂特派員撮影	中川紀元	3
不安なる世界の政局と英米の軍備拡張	松岡洋石	渡辺鏡藏	4
支那知識階級論	木下平治	三島章道	14
戦争に於ける教育と宣伝	上海戰線視察の感想	中保与作	18
支那新政府の相貌と將來性	大陸政策の二つの方向としての命題	原勝	27
日米支東半球経営論	一九四二・三年度の危機	水野広徳	33
植民地再分割論	國家総動員法案	野村重太郎	42
駐兵費現地支弁論	支那を掠める猶太勢力	三好武二	54
支那と共に潰滅せん	良力を如何に使用す可きか	汪兆銘	66
抗日ゲリラ部隊	「長期戦の準備は出来てゐる」座談会	梶原勝三郎	85
事変と織維工業	英帝國主義の亜細亞貪喰史	梶原勝三郎	93
対立する歐洲國家群		梶原勝三郎	101

『文藝春秋』事変・第七増刊

表紙	一六卷五号	一九三八年三月一日発行	
支那經濟工作の基本	小坂特派員撮影	清水登之	3
支那に於ける經濟政策と法案	議會に現はれたる經濟政策と法案	高石真五郎	4
時局漫画	連盟遭難す	片山哲	12
建艦競争	さ迷ふ蒋介石	中谷武夫	16
對支文化工作の諸問題	新民主運動に於ける	名村耿二	23
名村・松井石根	今ぞ印度人は醒めん	鈴木武夫	27
英米の提携は何うなるか	時局漫画 雁首のすげかへ	堀三三	38
時局漫画 悪るあがき	時局漫画 雁首のすげかへ	堀三三	45
時局漫画 悪るあがき	時局漫画 雁首のすげかへ	堀三三	48
時局漫画 悪るあがき	時局漫画 雁首のすげかへ	堀三三	53
時局漫画 悪るあがき	時局漫画 雁首のすげかへ	堀三三	55
時局漫画 悪るあがき	時局漫画 雁首のすげかへ	堀三三	63
時局漫画 悪るあがき	時局漫画 雁首のすげかへ	堀三三	66
時局漫画 悪るあがき	時局漫画 雁首のすげかへ	堀三三	75
時局漫画 悪るあがき	時局漫画 雁首のすげかへ	堀三三	85
時局漫画 悪るあがき	時局漫画 雁首のすげかへ	堀三三	93
時局漫画 悪るあがき	時局漫画 雁首のすげかへ	堀三三	101

『文藝春秋』時局月報8

表紙	一六卷八号	一九三八年五月一日発行	
短期戦勝への途	長期抗日家語の支那に対する指導	成田健吉撮影	3
時局漫画	中支振興一路	坂西利八郎	4
時局漫画	國民貯蓄奨励局	穴戸左行	7
時局漫画	この意氣で行け!!日本資本家	高木陸郎	11
時局漫画	断末魔の支那苦肉の虚勢	石川進介	14
時局漫画	ニユースのポイント	黒田礼二	17
時局漫画	防共協定より軍事同盟へ	小島成彦	20
時局漫画	新交際問題	石川進介	30
時局漫画	日支經濟提携の発足点	王子恵	35
時局漫画	ニユースのポイント	市河晴子	41
時局漫画	五馬連盟とは何か		49
時局漫画	五馬連盟とは何か		57
時局漫画	五馬連盟とは何か		63
時局漫画	五馬連盟とは何か		71
時局漫画	五馬連盟とは何か		79
時局漫画	五馬連盟とは何か		87
時局漫画	五馬連盟とは何か		95
時局漫画	五馬連盟とは何か		103

支那の戰略批判	大場弥平	148
新嘉坡の弱点を衝く	齋藤忠	156
抗日の中樞を扶る	後藤和夫	163
「國民政府を相手にせず」我が重大声明と世界の反響	角野達治	170
歐洲大戰の鍵はヒットラーに	長谷川了	184
世界を動かす人々	チヤンドラ・ボース	190
註文をつける(葉書回答)	諸家(18名)	196
北支風土記(山東省)	竹内夏積	204
北支風土記(山東省)	小口五郎	212
新政權下の北支經濟の全貌	徳川義親	218
淮南とこのころ	小田探	222
青島占領直後一週間	徳川義親	228
八達嶺驢馬行	森三千代	232
上海のGメンS.M.P	米村耿二	236
揚子江戦時ユウモア風景	岸田国土	242
北支風土記	岸田国土	249
編輯後記		255

スターリンは世界革命を断念したか	竹尾式	94	
時局漫画	防共ダム益々強化	下川四天	103
あぶなな綱渡り	穴戸左行	109	
江南風土記	波多博	111	
北支新教科書	穴戸左行	113	
時局漫画	生長する満洲国	117	
世界に於ける青少年運動	三島章道	121	
時局漫画	防共陣拡大	麻生豊	129
支那更生動向と中支政權	田中香苗	139	
取り残された仏蘭西	板倉進	144	
防共陣としての回教運動	大山卯次郎	150	
國際連盟と防共協定	中保与作	156	
支那を喰ふ赤色帝國主義	小島精一	164	
軍縮會議の過去、現在、未来	荏原亮山	171	
スエズ以東	齋藤忠	188	
北支洋物語	齋藤忠	198	
「杭州に戦塵を洗ふ」座談会	齋藤忠	205	
奇襲兵器	松元堅太郎	212	
列強の軍港と艦隊配備	三澤清	222	
時局寸評	角野達治	232	
中支戦線の支那民衆	後藤和夫	242	
成長する蒙疆政權	後藤和夫	252	
鏡後風景(＊詩と絵)	中川紀元	264	
世界から見た支那事変	編輯部編	282	
敵機台湾に現はる	平野零児	291	
敵機台湾に現はる	文藝春秋	295	
陣中の柳川中将	齋藤礼一郎	304	
倭寇物語	中村伸康	308	
編輯後記	海音寺潮五郎	327	
表紙	成田健吉撮影	342	
短期戦勝への途	向井調吉	357	

戦時期メディアの編成と展開

時局漫画 平和の女神曰く	近藤日出造	49 47
時局漫画 道行き	下川四天	
「見て来た北支を語る」大学生座談会	細川清次	
尾崎正三／金子重弘／春日良嗣／高木正光／工藤白／三浦田勝太郎		
近藤武／北村秀三／大村俊		
六全大会後の蔣政権 香港に響く抗日の声	吉岡文六	73 68 50
時局漫画 政局明朗なり	近藤日出造	
支那の抗日インテリ論	原勝	74 73 68 50
黄土文明	石川三四郎	
時局漫画 物価統制	小野佐世男	89 82 81
アジアを拓く少年義勇軍	林房雄	89 81 73 73 67
時局漫画 文藝春秋特撰	草城鉄人	
時局漫画 エラ・メイヤー	下川四天	
天山南路	丸山幹治	123 114 108 90
時局漫画 建艦競争に躍るアメリカ	飯田蛇笏	108 82 74
職場から見た事変の波紋	木原通雄	134 130 126
新聞記者のデスクから	島田晋作	123 125 113 107
銃後の山村	豊島信一郎	89 89 81
首相官邸さのふけふ	川崎正雄	81 73 73 67
工場街と商店街	海野稔	
ニユースのポイント	長井真琴	
対日悪宣伝に狂奔するソ連新聞の論説	依田昌二	
敗戦支那新聞の社説から	長井真琴	
ブレンネル峠	依田昌二	
印度見たまま	依田昌二	
瀨死の支那空軍	依田昌二	
ニユースのポイント	五萬噸戦艦は可能か	
巴厘報告「世界動乱の前後」座談会	依田昌二	
渡邊一郎／井上勇／町田梓雄 松尾那之助／小松清 城戸又／今日出海		
義勇軍撤収後のフランコ政権	大平進一	190
足で描く北支経済	大平進一	188 183 170 162 157 152
現地随筆	大平進一	152 152
カイロで「君ケ代」を探す	柳澤健	152 152
北支那味覚放談	小早川秋声	
ニユースのポイント	何が郷男を出馬させたか	
新戦場の日本刀	蒔田宗次	
杭州より南京	小林秀雄	
中支寸感	麻生豊	
シंगाポールの裏街から	文藝春秋特派員	
シंगाポールの裏街から	文藝春秋特派員	
満蒙軍従軍記	成田健吉	
ニユースのポイント	仏蘭西の内閣は何故短命か	
極東従軍記	白耳義軍記者	
ロペールのポイント	メキシコ石油騒動の真因	
ニユースのポイント	小野佐世男	
殲滅戦法	大場弥平	
時局漫画	裸になつても力強く	
近衛篤磨公大陸経営の先覚者(その一)	渡邊幾治郎	
編輯後記		
105	282 280 277 272 266 250	292 290 277 279 261 259

表紙(前線に活躍する我が観測気球)	堤泰三	4 3
原稿	宮本武之輔	13 3
時局漫画	堤泰三	13 11
これからの運用	堤泰三	13 11
ちよいと脈打診	堤泰三	13 11
戦線視察より帰って	野田清	14
海軍軍事普及部員長海軍少将		
小農持政策の検討		
事変を境とした農村のプログラム	東畑精一	19
時局漫画	横山隆一	20
ヨロツパの新舞台	横山隆一	20
野審報国	穴戸左行	23
北支より帰って	那須皓	23
北支農村を如何に再建すべきか		
時局漫画	下川四天	33
坊つちやんは世界がお好き	黒田礼二	33
独伊枢軸がものをいふ	武藤貞一	33
ソ連に抗日戦意ありや	穴戸左行	33
時局漫画 第二の最後の関頭潰滅		
国内改革は何から手をつけるべきか		
松永安左衛門／清瀬一郎／藤本五郎		
杉山平助／赤松清／前田多門		
奥村和男／河野密／猪谷善		
大藏公卿／宮本武之輔／津田清		
服部守吉／二荒芳雄／浅野真		
牧野三／馬場恒吉		
敗将李宗仁	玄永燮	72
朝鮮 台湾 満洲 事変下民族の記録	玄永燮	72
半島インテリの動き	吉岡文六	66 58
満洲国の新動向	吉岡文六	66 58
戦時下の台湾点描	尤宗翰	77
北京雑報	李清桂	77
時局漫画 防共マチの人氣	佐藤春夫	84 80 77 72
徐州会戦を語るスポークスマン座談会	下川四天	93 93 83 79 76
細谷賢男／松島慶三／林野野／俣内豊治／板垣修 尾之上信信		
現地随筆	西村裕也	94
劉氏嘉業堂の書物	西村裕也	94
戦線露影	小早川秋声	118
北京人気質	小早川秋声	118
徐州陥落その後に来るもの	奥野信太郎	118 118
徐州陥落と英蘇の動き	奥野信太郎	118 118
徐州陥落と国共分裂の時機	小室誠	118 118
徐州会戦地図	井上謙吉	142 134
支那側の徐州前哨戦記	井上謙吉	142 134
浴血! 台兒莊闘戦記	陳湘	142 134
蚌埠潰走記	陳湘	142 134
西部離海戦を死守す	劉芳全	148
ニユースのポイント	株相相場から見た徐州陥落	
テエゴは独逸のものだ!!	齋藤忠	
回教礼拝堂の落慶式	齋藤忠	
戦時資源愛ふ勿れ	笠岡巖生	
事変下の綿業	笠岡巖生	
中原虎男	巨泉雄	188
188	182 172 166 165 161 154 148	187 181 170 165 164 160 153

鉄鉦資源は大衆観	竹内謙二	207 201 196 193
石油問題憂ふるに足らず	大村一蔵	207 201 196 193
産金戦線異状なし	小山一郎	207 206 201 195
ニユースのポイント	文官制度改革案の眼目	
徐州陥落後の蔣政権打診	後藤和夫	219 214 213 208
ニユースのポイント	在 上海 後藤和夫	
徐州 淮水・揚州	波多博	219 214 213 212
時局漫画	岸丈夫	
私の帰朝報告	岸丈夫	
巴里はストライキ流行り		
近頃のフランスの世相		
現代英吉利人氣質	友田宜孝	238 232 226 220
めりけん小断	松浦嘉一	238 232 226 220
昆明一書簡	平井泰太郎	238 232 226 220
ニユースのポイント	山縣初男	
英国在支勢力の尖兵・香上銀行		
満蒙東部国境線を往く	中村敏	244 237 232 226
国境の町ハルビン便り	中村敏	244 237 232 226
厦門島	阿部智義	244 237 232 226
航研機・離陸から着陸まで	永由君人	244 237 232 226
木更津現地報告	大場弥平	244 237 232 226
鴻門の会	大場弥平	244 237 232 226
時局漫画		
下へもライトをあてることになった		
いつまで続くデマ放送	近藤日出造	292 282 279 275
宮崎滔天 大陸経営の先覚者(その二)	近藤日出造	292 282 279 275
編集後記	宮崎龍介	292 291 279 275
「文藝春秋」時局増刊 一〇		
「文藝春秋」時局増刊 一〇		
「文藝春秋」時局増刊 一〇		
表紙(夕闇迫る二〇一)	高橋三吉	3 3
原稿	高橋三吉	3 3
北鮮満洲旅行所感	高橋三吉	3 3
時局漫画 超弩級の新五相会議	高橋三吉	3 3
対支経済工作の進展	太田正孝	14 11 4 3
時局漫画	太田正孝	14 11 4 3
図々しいフランス	穴戸左行	14 11 4 3
黄河氾濫 怒涛氾濫	石川進介	14 11 4 3
漢口攻撃 怒涛氾濫	石川進介	14 11 4 3
独逸の新産業四ヶ年計画	石川進介	14 11 4 3
逃走万里の蔣政権	石川進介	14 11 4 3
時局漫画 英の破廉恥	石川進介	14 11 4 3
大陸経営と新政権	石川進介	14 11 4 3
明日の東亞歴史と日支提携の指針として	石川進介	14 11 4 3
時局漫画	秋定鶴造	48
蘆溝橋事件より一周年	秋定鶴造	48
英仏の空爆抗議	近藤日出造	55
政戦両略の一元化	岸丈夫	55
時局漫画	齋藤直幹	55
「漢口攻略と事変の見透し」座談会	齋藤直幹	55
井上謙吉／大西博／佐藤安之助／藤崎四郎 松平忠久／橋田実		
銃眼	巨泉雄	78
78	72 62 61 55	77 71 61 55

戦時期メディアの編成と展開

張鼓峰より漢口へ―時務報告	巨成生	7065
邊疆支那の将領たち	井上謙吉	7369
戦時国内問題の徹底的解決		
出直すべし・国民精神総動員	新明正道	7065
技術者徴用と新技術者精神	宮本武之輔	7369
事変と土地制度	東浦庄治	7065
生活の単純化徹底	大熊信行	7369
転業問題の解決へ	島田晋作	7065
かくあらねばならぬ戦時医療制度	浦本政三郎	7369
ニユースのポイント	チエコ問題と英国の魂胆	7065
支那国民性十六講	塩谷温	7369
時局漫画		
しくじった威力偵察	林京太郎	7065
ドイツの大演習英仏の神経を失らす	近藤日出造	7369
現地画信 北京四題	中澤弘光	7065
もり上つて来る革新日本外交座談会	亀井眞一郎	7369
銃眼		
服装と民族性	栗田元次	7065
日本人異状なし?	藤田徳太郎	7369
文部省と大学	黒田亮	7065
月と政治	栗生武夫	7369
政治学論	川原次吉郎	7065
現地面信 田園	三井高陽	7369
前線報告 進撃戦線より	向井潤吉	7065
一等兵戦死	正治清英	7369
現地画信 ちよいと覗いた北京	松村益二	7065
蒙疆地区	宮尾しげを	7369
漢口実見記	後藤富男	7065
ニユースのポイント	エリツエ・ズバルバロ	7369
軍楽従軍記	独匈接近の意味	7065
銃眼	大沼哲	7369
北京「人間経済」	大河内一男	7065
北京生活学校訪問記	朱泉	7369
ニユースのポイント	消え行く支那の在外正貨	7065
裁判に現れたロシア人氣質	菱沼舟一郎	7369
揚子江上、日艦を爆撃す	梁国瓊・朱民威	7065
遊撃隊員の日記より	大学改革問題の重点を衝く	7369
ニユースのポイント		
戦時地方色を探る		
東北六県の人と産業		
銃後の漫画報告(＊漫画)	本誌特選	
シベリア出兵	岸丈夫／加藤悦郎	7065
時局漫画 ソ支密議	竹尾式	7369
支那合戦譚 赤壁の戦	大場弥平／鈴木朱雀画	7065
時局漫画 失業・転業対策へ	穴戸左行	7369
白石元二郎(露国軍探偵 第二回)	木村毅／弦牧男画	7065
編輯後記		

表紙(突撃寸前)	足立源一郎	7065
原絵	有馬頼豊	7369
戦時下・新秋直言	秋定鶴造	7065
一面建設 一面戦争―勝利を確実保障する為め	堤寒三	7369
時局漫画 英首相飛躍		
武漢陥落後の湖南と四川―蔣政権が最後の軍庫と頼む画省	神田正雄	7065
時局漫画		
蔣政権の落ちゆく先	穴戸左行	7369
連盟に立ちつぐ	小泉紫郎	7065
断乎! 広東攻略すべし座談会		
大石巨蔵(大山卯次郎) 神田正雄 竹内夏積 藤田家介 横田実		
銃眼		
「文教」の必要性	後藤木雄	7065
日本精神より亜細亜精神へ	隅部一雄	7369
出征兵士の送送	草野豹一郎	7065
香港通信 香港から見た蔣の勢力	横田高明	7369
銃眼		
チエコ問題縦横	木村鏡市	7065
時局漫画		
胚芽米騒動	石川進介	7369
宇垣人事	岸丈夫	7065
兵士の記録 兵燹消えぬと	川下米一	7369
現地報告 徳安へ―江南の山嵐	九鬼豊二	7065
銃眼 支那の武士道	有高敏	7369
作戦的に見た漢口攻略戦	井上謙吉氏に訊く	7065
眼		
お前の国のもの	青木保	7369
民族と外交	河野密	7065
海軍航空隊に就て―航空夕話	加藤尚雄	7369
時局漫画		
転業対策	加藤悦郎	7065
戦線浴湯記	小野佐世男	7369
楊樹浦飛行場	日名子実三	7065
ニユースポイント	重村実	7369
防共軍事同盟への動き 時務報告	巨成生	7065
ニユースのポイント マチノ線とジークフリート線	佐藤安之助・高木陸郎	7369
佐藤安之助・高木陸郎両氏に漢口陥落後の支那問題を訊く	佐藤安之助・高木陸郎	7065
銃眼		
永い眼で見る	田誠	7369
宗教改革	亀井勝一郎	7065
デモクラシーの清算	魚生吉治	7369
伝軍を描きつゝ	麻生豊	7065
水の武漢三鎮	松島慶三	7369
心持たれた新聞記事(葉書回答)	諸家(13名)	7065
支那側従軍記		
新戦場・廬山を望む	大中公報	7369
南潯線陣地帯を往く	新華日報	7065
作戦指揮部の一隅から	華僑日報	7369
陣中に張鼓峰事件を語る	陸語	7065
大英戦報	曾猶式	7369

廢墟・広済に行きみて	店村日報	7065
ニユースのポイント	李白文	7369
満独通商協定強化		
対支中央機関の設置問題	相馬正男	7065
モスコに任んじてみて	大平進一	7369
ニユースのポイント 宇垣人事第一弾の特性		
北京通信		
ニユースのポイント		
中華民国政府連合委員会の成立	近藤栄蔵	7065
崩れる武漢政府	森上雅二	7369
荒尾精―大英特報の記者(その五)	井比呂志	7065
時局漫画 学生就職問題	大場弥平／鈴木朱雀画	7369
三国武漢の争覇―那合戦譚		
白石元二郎(露国軍探偵 第二回)(＊小説)	木村毅／弦牧男画	7065
編輯後記		
「文藝春秋」時局増刊 一四		
表紙(安慶)	北村小松研一	7065
原絵	中村研一	7369
東亜の文化提携につきて	鶴澤総明	7065
時局漫画 宇垣退陣後の外務省	神田正雄	7369
陥落した広東とその攻略の意義		
時局漫画		
我等にも権利あり	麻生豊	7065
漢口陥落す	小泉紫郎	7369
広東・武漢陥落と狼狽する英国	横田実	7065
時局漫画 大地耕作機の運転近く	下川四天	7369
漢口陥落とその後の戦勢	大場弥平	7065
我が南支作戦と蘇連邦	竹尾式	7369
古荘幹郎論	濱田尚友	7065
塩澤幸一論	梅田吾郎	7369
日支融和策の大移民―時務報告	巨成生	7065
戦況最高潮に達す!! 座談会	福山寛邦(細谷資芳・松島慶三・津久井龍雄・大石隆基・山縣初男)	7369
銃眼		
知識の力	三枝博音	7065
ウイジョンとイリウイジョン	片山敏彦	7369
娯楽統制の点晴	権田保之助	7065
揚子江一瞥	菊池寛	7369
九江にて	浅野郎	7065
南支航行遮断線	横山一郎	7369
南支地理学 海南島		
広東派将領の悲劇	橘善守	7065
前線將士に銃後の秋を伝ふ	相馬御風	7369
東園秋景	岡本かの子	7065
独塊合併の日の印象	宮本東野	7369
南支地理学 九龍と澳門		
香港から重慶まで―長途自動車旅記		
南支地理学 南支の新鉄道	毛仿梅	7065

戦時期メディアの編成と展開

石達開將軍(大正天皇国兵告簡) 小田嶽夫
 投降(*小説) 張露薇
 編輯後記

『文藝春秋』時局増刊「一七 一九三九年二月一〇日発行」
 表紙 近衛声明批判
 事変処理の基本條件 中谷武世
 再建支那と日満の基本的関係 高木寿一
 日本経済平等の原則 竹尾式
 無賠償・領土無割譲・治外法権撤廃 杉森孝次郎
 東亜建設事業の見通し(問題は治安工作の崩壊) 小室誠
 支那赤軍巨頭論 橋善守
 陸軍の興亜中堅男(興亜中堅百人男の内) 菅原節雄
 汪兆銘脱出を私は斯う観る 大蔵公望
 「幸先きよき一石」 阿部真之助
 「蒋介石と默契ありや」 藤田栄介
 「和平到来未し」 太田宇之助
 「汪兆銘の心境」 城戸又一
 巴里雜信(私の福朝報告) 林炳耀
 脱皮する広東(興亜の先駆・日本工学を語る座談会) 岡部栄
 興亜の先駆・日本工学を語る座談会 堀内明(鈴木雅次/平山俊二郎/松前重義/宮本武之輔/山下剛家)
 銃眼 天は二物を与へぬ 津村秀松
 本と兵隊 吹田順助
 防共とユダヤ排撃 笠間栄雄
 もつと情熱を 本多顕彰
 前略御免各人各界に呈上(*漫画) 岸丈夫/加藤悦郎
 平沼内閣を私は斯う見る 88
 「何等期待せず」 杉浦武雄
 「事変收拾を期待す」 馬場恒吉
 「じつくりした心構へ」 東浦庄治
 「指導力は民衆の手に」 木村毅
 支那語漫筆(江口時代に於ける語彙の流行) 竹田復
 花の広東(英米の対蒋借款を私は斯う観る) 文藝春秋従軍記者 小坂英一
 「予想の實現」 田川大吉
 「日本の難關」 坂垣直吉
 「慎重な対策」 金原賢之助
 「有償的贈物」 小早川秋生
 寒天の大湖湖に掉して 古池生
 平沼内閣への眺望(時務報告) 白石澤
 従軍報告(十九人の少尉) 下川四天/石川進介
 世界ニュースを拾ふ(*漫画) 長澤豊
 前線療養班 144 140 128 124 122 120 119 118 106 96 94 93 92 92 88 79 77 71 69 64 58 52 50 49 49 48 39 32 22 17 13 10 4 3 256 246 234 256 255 244

日ソの危機を私は斯う見る(日本国力の打診) 杉山平助
 (最も深刻なる対立) 木村銳市
 (全面的危機) 喜多村一郎
 (世界大戦の責任は誰?) 丸山政男
 (防共反共より一步前進) 藤澤親雄
 銃眼 実證的批評 今日出海
 日ソの危機を私は斯う見る(ソ連の大誤算) 角谷健次
 泥濘二百八十里 前山賢次
 歩兵軍曹
 従軍画 船内 生澤朗
 進発 伊原宇三郎
 大同西門 向井潤吉
 戦ひの後 伊原宇三郎
 孔祥熙邸にて 伊原宇三郎
 支那台戦譚 諸葛孔明 大場弥平/鈴木朱雀画
 編輯後記 編者朱雀画
 『文藝春秋』時局増刊「一八 一九三九年三月一〇日発行」
 表紙 第二次世界大戦への展望 中村研一
 新東亜建設基地としての北支 鹿島守之助
 現地報告 上坂西三
 対日感情をアンリール大使に訊く 菱刈四郎
 「東亜協同体」論争 一原有常
 感謝の表現 谷口吉彦
 銃眼 感涙の表現 小野武夫
 「汪兆銘・真佩享 和平運動の展開を語る」座談会 井上謙吉/太田宇之助
 銃眼 支那は脱線の国 有高巖
 生産拡充と改革 杉山平助
 戦争意識の進化 津久井龍雄
 議会議論の貧困 尾山大作
 支那評論家群像(興亜中堅百人男の内) 大宅壮一
 世界危局に対処すべき日本の外交工作案をどう 田村幸策
 法幣との関ひ(その宿命・将来の見通し)就て 松岡孝尼
 日鋼修理班(開野攻撃班中記) 成瀬潤次
 海南島占領の意義と列国の動向 大山明次郎
 海南島奥地踏破記 レオナルド 大山明次郎
 燕京食譜 奥野信太郎
 「断乎! 租界テロを根絶せよ」座談会 伊原宇三郎
 銃眼 統制の余慶 伊原宇三郎
 従軍画 商学院 徳孩之
 支那開の「長期建設」報告 大美晩報
 「大路歌」斉唱!! 148 147 137 134 126 116 108 88 80 74 68 58 51 47 43 36 33 33 28 22 20 13 4 3 256 242 200 196 178 174 171 167 166 165 164 163 162 160 160 151 147 137 146 133 125 114 107 86 79 73 67 51 47 43 57 33 33 35 27 21 19 12 3 256 255 201 197 179 175 171 241 166 165 166 164 163 162 160

中蘇公路の全貌 大美晩報 街烈輝
 蒙古語漫筆 山本兼久
 空のトビック 小林元
 東回教團印象記 小田嶽夫
 郭沫若と郁達夫(創造社の詩人) 加藤悦郎/岸丈夫
 興亜の蟲(*漫画) ヒットラームツソリーニ外交戦術(歐洲時局談義) 坂東公望
 通電物語 小口五郎
 前線兵士の手記 川下米一
 徐州街道 吉岡堅二
 漢口にて 福田豊四郎
 九江にて 吉岡堅二
 擬装トーチカ 伊原宇三郎
 前線兵士の手記 伊原宇三郎
 蘆山戦線百草枯れたり 宮崎元
 従軍画 小堂子の戦跡 伊原宇三郎
 孔明涙を揮つて馬護を斬る(支那台戦譚) 大場弥平/鈴木朱雀画
 編輯後記 編者朱雀画
 『文藝春秋』時局増刊「一九 一九三九年四月一〇日発行」
 表紙 功利的と浪漫的と(現場工作に於ける我等の態度) 中澤弘光
 犀絵 支那事変の解決について 杉村広蔵
 現地報告 坂西利八郎
 防共枢軸を中心とする歐洲の外交戦 川島理一郎
 「銃後労働力の革新」座談会 野田均
 吉岡金市/阿部達馬/室川基彦/片山哲/東浦庄治
 銃眼 医科大学の志望者 高野六郎
 辺疆に対する関心 大野成章
 興亜会 尾佐竹彦
 国家以上のもの 大熊信行
 興亜経済中堅男(興亜中堅百人男の内) 北川一夫
 今議会の経済立法は何を語るか 岩井良太郎
 生産拡充四ヶ年問答 神田正雄
 北支豪強の現地視察 中保与作
 建設戦と苦力の問題(興亜政策基本問題の二) 柴田隆夫
 立ち上がる世界の回教徒 三宅驥一
 クルツ工場のその思ひ出 加藤悦郎
 「法幣と如何に関ふべきか」座談会 高木陸郎/山崎清純
 銃眼 協力の必要 木原均
 世紀の武器 森岩雄
 赤露素描 赤松俊子
 医者之眼と大陸 石井信太郎
 128 123 119 115 108 106 99 92 86 80 69 62 57 51 47 43 36 26 24 23 12 4 3 256 240 239 228 227 224 219 215 210 204 196 192 178 164 163 156 152 136 127 119 115 122 107 105 98 91 85 79 68 57 51 47 43 61 35 25 23 22 10 3 256 254 239 238 227 225 219 215 226 209 203 195 191 176 163 162 155

従軍画 廃墟素描 旧支那の動脈「大運河」 時局下に進む生産力拡充の巨歩 理工工業地帯を往く「農村工業の結び付き」に就て	在北京 瀧川政次郎	138	137
日本で初めてニツケルが出来た!!「戦時支那の国民生活に就て」	田中裕一	144	154
融雪期の東北農村「積雪農務行政経済調査所を訪れて」	最上徳平	154	162
支那の外交官たち 空襲下の重慶	鶴峰三吉 笠間栄雄	173	172
北京の日本学者「老北京第三話」 前局語漫画辞典（*漫画） 前線兵士の手記 藍の襟章（統）	駐支英領事館一等書記官 J・ハットン 奥野信太郎 佐川英三	186	184
折口鎮の敵兵舎 作業を望む〇〇部隊長 バルセロナ最後の日「カタロニア州投略の前後」	行田泰英 行田泰英	202	203
野戦病院前進（*小説） 従軍画 雲海の旭日 支那合戦譚 孔明中原争覇の大活動	ロベール・デシヤン 松村益二／林唯一画 川島理一郎	218	225
編輯後記	大場弥平／鈴木朱雀画	240	255
『文藝春秋』時局増刊 二〇 一七卷一〇号 一九三九年五月一〇日発行			
屏絵 対支文化工作の理念 英国の対日政策の検討「クレイキー・カー会議の示唆するもの」	川島理一郎画 松村爾	3	3
従軍画 将校の顔 ロメル波蘭大使とポリテイス希臘公使に対樞軸外交を訊く	清澤洵 高井貞二	19	18
現地報告 作業節之の心境 第三期物価統制論「インフレは防止出来る」 従軍画 墮ちた蒋介石 「欧洲の危機は支那事変にどう響くか」座談会	呉佩宇 岩井良太郎 橋本徹郎	28	26
鏡眼 日人が悪い 支那人は倒まに生ず 青年層への警告 苦悶する欧米の声 興亜外交の人々「興軍中堅百人男の内」 支那有力新聞の論調 陽光を浴びる子供たち（*漫画） 楓橋の上に立つて「中文新聞記」の部 大陸通信 その一 半島軍国調	竹田復 富田風生 岡山巖 齋藤陽太郎 小口五郎 加藤悦郎 新明正道	49	49
池島信平		96	103
特輯・傷兵問題 国民と傷兵軍人 傷兵はかく護られてゐる」座談会 「傷兵はかく護られてゐる」座談会 （講義）片岡智／高杉新一郎／藤原孝夫／三木長重／持本忠雄	本庄繁 宮城道雄 河野武夫	104	105
鏡眼 鏡後に於ける明暗二道 深く瞳を内に向けて 我が更生思想 更生の感想 なつかしきかな活字 素裸になつて 左腕癒ゆ 戦場の勇士 運送店に田邊一照君を訪れて 取引所街に本田軍曹を訪ふ レンジ切断工・加藤守一君 東洋計器の失明勇士 好日善き人を見たり 施設訪問 日曜日の失明傷兵軍人寮 戸山ヶ原母子アパートのぞ記（*漫画） 屯墾病 従軍画 南京より上海への線路 在留邦人から親た青島の諸相 上海放送商売往来 前線兵士の手記 小行李陣地 従軍画 大同城壁外にて 新造の裏街にて 小休止 空のトビツク 女人剪影録 南支夜話 従軍画家の鼻 前線兵士の手記 失つた大臣旗 長江岸 残敵掃蕩隊新造の街に入る 作業 一番乗 浙贛鐵路（*小説） 支那合戦譚 星落つ秋風五丈原 編輯後記	永井亨 朝倉文夫 藤川忠治 松村益二 前山賢次 日比野士朗 岸丈夫 山崎五郎 高井貞二 高木益 山崎三郎 服部正一郎 山崎吉三 酒井亮吉 青木文八 奥野信太郎 和久田幸助 山崎坤象 服部正一郎 山崎省三 酒井亮吉 橋本徹郎 藤枝丈夫／生澤郎画 大場弥平／鈴木朱雀画	121	121
『文藝春秋』時局増刊 二二 一七卷一二号 一九三九年六月一〇日発行			
表紙 屏絵 事変以来の政治の動き 日中文化問題の新しい着眼点	蠟山政道 加田哲二	3	3
従軍画 廬州 戦時経済の二箇年 鏡眼 軍事と外交 現地報告 「支那事変第三年」座談会 （有馬頼寧） 賀原興武／竹内清吉／船田中松井根／松田千秋／松村秀逸／松本忠雄	大野隆徳 風早八十二 植原悦二郎	25	25
鏡眼 ナチスの『社会政策的秘密』 工業資源開発第一線に働く勇士 統制経済 必然の線 遠大正確の見透 戦慄すべき感銘 民族のパロメーター 従軍画 張家口 国民生活現状報告 転失業者の更生振り 労働者風俗時評 サラリーマンさまざま 印刷沼畔報告書 北京籠城前後 上海を環つて 上海の日本人に懇ふ 香港・けこの頃 大陸文化工作の前衛者「興軍中堅百人男の内」 防空壕 切断せる手足の後日物語 大陸漫画通信（*漫画） 日支戦二年の回顧「戦時局総批評」 戦時下諸問題を訊く 物価政策に対する註文 統制政策に就て 国民に与ふ 事変以来最も感銘した事 戦争と平和 満洲・北支・中支の急行視察 防共強化の範圍を論ず 軍需町工場気焔録 大陸通信 その二 大陸科学院と建国大学 「新しい滿洲の文化的施設を觀る」 新東亜建設巻（*漫画） 慶州 支那に対する文化工作 租界の裏街道 軍事同盟物語 前線兵士の手記 患者壕 従軍画 大宮鎮城壁 狙撃 野に立つ	山都幸次 小倉正道 安齋玉雄 高橋恭介 奥野信太郎 武内義雄 河合俊三 永戸俊雄 永戸俊三 永戸俊三 郷晃太郎 池田さぶろ 大場弥平 助川啓四郎／神足清子／岡宮茂樹 津村秀松／上村小菊／下村海潮 高木友三郎／梶井忠雄 高木友三郎／佐佐木信綱 佐佐木信綱 今井登志喜 上田貞次郎 稲原勝久 酒井真太郎 加藤悦郎／岸丈夫 大場弥平 川下米一 後藤和夫 林藤 宮田重雄 向井調吉 伊原宇三郎	21	21
川下米一		218	230
後藤和夫		208	202
林藤		203	202
宮田重雄		200	192
向井調吉		201	199
伊原宇三郎		202	199
大場弥平		179	174
酒井真太郎		170	162
稲原勝久		174	162
上田貞次郎		170	162
今井登志喜		160	160
佐佐木信綱		159	158
高橋恭介		159	158
奥野信太郎		159	158
武内義雄		159	158
河合俊三		159	158
永戸俊三		159	158
永戸俊三		159	158
郷晃太郎		159	158
池田さぶろ		159	158
大場弥平		159	158
山都幸次		146	142
小倉正道		139	136
安齋玉雄		129	122
高橋恭介		129	122
奥野信太郎		116	110
武内義雄		110	102
河合俊三		97	92
永戸俊三		85	80
永戸俊三		85	80
郷晃太郎		79	74
池田さぶろ		73	70
大場弥平		65	61
山都幸次		57	53
小倉正道		49	45
安齋玉雄		49	45
高橋恭介		49	45
奥野信太郎		49	45
武内義雄		49	45
河合俊三		49	45
永戸俊三		49	45
永戸俊三		49	45
郷晃太郎		49	45
池田さぶろ		49	45
大場弥平		49	45

戦時期メディアの編成と展開

信陽にて 前線兵士の手記	大野隆徳	231
車輪部隊	今井松太郎	232
従軍画 山峡を征く	宮田重雄	233
衛生隊の活躍	伊原宇三郎	234
敵状監視	向井潤吉	235
支那の空中作戦	石井相亭	242
萬全県	北村小松	243
編輯後記		244
『文藝春秋』時局増刊 二二 一七巻 四号 一九三九年七月一〇日発行		
現地思想戦の展望	宮田重雄画	12
内鮮一体の強調	赤松克麿	4
現地報告	南次郎	11
租界と法幣への幻想	杉村広蔵	20
上海租界の運命	新明正道	22
対英海上封鎖の完成	齋藤忠	28
支那を喪ふ英国—天津租界陥落を繞つて	中保と作	35
「日独伊軍事同盟と支那事変取捨」座談会		27
銃眼 集賢—五来敬造／清水盛明／中谷武世／福山善三／三島実		49
戦慄すべき事態	大泉秀信	57
節約の問題	上原信行	61
日本文化と創造	古川晴男	63
なめられる外交	本多顕彰	65
衣食住と日本文化	三島一	67
経済封鎖恐るるに足らず	岩井良太郎	68
軍事同盟が出来たら	小池四郎	82
日英同盟の轍を履むな	丸山幹治	83
世界新秩序建設のために	小島精一	85
龍虎相搏つるとき	杉浦武雄	86
新東亜建設第一	清瀬一郎	87
人類発展への一里塚	杉森孝次郎	88
道理と実力	大山卯次郎	89
戦争防止の爲にも必要	山口実彦	90
対戦策決定と支那新聞の狼狽振り	小口五郎	91
支那中堅官僚の和平論—南京訪問記	山本実彦	92
軍事同盟が出来たら		99
英仏を情伏させた独空軍	マーク・エー・ローズ	103
ノモンハン血戦従軍記	坂下健一	108
油頭占領と事変の見透し	藤田栄介	119
支那人の性格	奥野信太郎	122
従軍画 揚子江上船中	福田豊四郎	129
胎動する満洲文化	村村勇造	130
江南砲艇隊誌	木村重	131
戦争と精神病	諏訪敬三郎	132
白人は支那で何をしたか	藤井啓之助	133
チエツコ抹殺の日	瀧川政次郎	134
宮官き、がき	永戸俊雄	135
興亜科学者群像		143

大陸通信 その三 山西交通列車—王太銀行客車から検次まで	池島信平	182
支那街頭風景（*漫画）	宮尾しげを	189
南洋村報告書	岩崎榮	190
廬山その他—支那旅行	恩地孝四郎	194
便乗世相抄	高田正治	199
前線兵士の手記	渡邊正治	207
飛行基地警備記		219
従軍画 通州白塔	中澤弘光	218
取乱した敵の參謀長室	小早川秋声	219
天津市役所跡跡	吉田謙吉	221
海南海口の一隅	吉田謙吉	222
武昌より漢口を望む	福田豊四郎	223
前線兵士の手記 光州城まで—車両部隊（*其二）	今井松太郎	227
従軍画 戦塵を洗ふ	小早川秋声	231
廈門よりコロンス島を見る	吉田謙吉	233
「スパイの科学」物語	海野十三	237
後方戦記—従軍記者のメモから	白石潔	243
編輯後記		255
『文藝春秋』時局増刊 二二三 一七巻 一六号 一九三九年八月一〇日発行		
表紙（北京萬壽山仏光閣）	立上秀二	3
犀紙	中澤弘光	3
日英相剋の推移	今井登志喜	4
移り行く英国の立場—歴史家の見た—持てる因—英国の正統	熊岡美彦	11
従軍画 厦門華僑の寺	金子鷹之助	12
日英相剋の推移	伊東敬	22
日英経済戦の将来	齊藤陽太郎	28
英国外交官氣質	朝井閑右衛門	34
日英会談と駐支領事	津久井龍雄	41
天津イギリス租界の隔絶		40
〇〇特務機関のA女史		37
従軍画		21
汪兆銘の前進と日本		48
現地報告	杉山平助	50
汪兆銘声明を批判し	横田高明	52
上海に於ける汪兆銘声明の反響		51
海の特ピツク	古城江親	64
従軍画 海南島の蕃族	齋藤忠	65
日本戦争字—多田哲知氏の著書を紹介して	熊岡美彦	66
日英相剋の推移		71
東京会談を監視する座談会		70
銃眼 秋山邦雄 太田孝助 鹿島守助 三枝實智 中保と作		89
世界戦争とドイツ文学	舟木重信	79
因南鵬翼何時奮	青木得三	81
たノ頼む	中野好夫	83
武力以前、武力以後	田中愨五郎	85
本質的生活合理化	藤森成吉	88
チエンパレン閣下（*漫画）	岸丈夫	87

外蒙戦線現地報告	飛石賢一郎	102
メレゲネー高地総攻撃	坂本邦磨	106
火を吐くホロンバイル平原	坂下健一	109
ポイル湖上空戦従軍記	橋善守	112
ノモンハン戦勝の諸発見	朝井閑右衛門	116
従軍画 上海で逢つた南郷少佐	逗子八郎	111
生きてゐる海南島		115
気魄と犠牲—上海市長—佐藤隆氏と元杭州市長—何讓氏	伊藤武雄	128
新北京の支那人	小田嶽夫	134
支那の智識階級	奥野信太郎	142
断髪異変—世相稿	淡路門太郎	148
戦雲下の蒙古草原	大宅壮一	154
東辺道開発地帯	立上秀二	162
北京と北京人を語る座談会		171
佐藤隆子／佐藤隆要／中村忠／村上知行／久米正雄／立上秀二		191
銃眼 国民の声、日本精神の発現	石川三四郎	183
日本人の死	福井久蔵	187
銃後だより	乾信一郎	192
お蠶様	山本正雄	193
夏六題（*漫画）	加藤悦郎	195
兵隊志願（*小説）	池崎忠孝	203
戦争夜話—皇軍の略略力	由水盈	207
前線兵士の手記	鷲尾洋三	210
戦線のある三日間—伍長の手記	野間仁根	217
従軍画 小休止	野間仁根	213
広東の昆虫	太田宇之助	220
漢口英租界乗取り前後	鳥海青児画	227
綿の花（*小説）	古城江親	221
従軍画 亜熱帯戦の労苦		254
編輯後記		255
『文藝春秋』時局増刊 二二四 一七巻 一八号 一九三九年九月一〇日発行		
表紙	吉田潤泉影	3
犀紙	鳥海青児画	4
独ソ不可侵条約と日本	中野正剛	10
独ソの接近とタンチツト問題	小室誠	18
現地報告	杉村広蔵	20
新事態に備するの途	柏原覚太郎	25
法幣下落と其の将来	松岡孝児	26
従軍画 暁の廬山	南薫造	33
大陸農村を巡りて	吉植庄亮	32
米国の魂胆を語る—丸岡信と日米通商條約破裂の通商	稲原勝治	42
空の特ピツク	横田高明	48
特区法談の接収を急げ		54
「東京会談決裂以後」座談会		49

銃眼	清瀬一朗／鈴木康三／中谷武徳／濱野太郎／福山喜郎／松岡春雄	118
大星の謎		110
戦争と食糧	萩原朔太郎	103
人口研究所の機構	千石興太郎	94
英貨不買	寺尾新	63
山の湯風景	竹内時男	59
従軍画 杭州	富安風生	75
大國を治むるは小鱗を煮るが如し	柏原寛太郎	77
	在上海 小宮義孝	75
中支点描	諸橋徹次	75
現地に見る日本の東亜新秩序	坪田讓治	84
阿レシヤンドレ・コンデル		87
共産第八路軍の活躍	本社特派員 立上秀二	93
満洲増産地帯を往く		102
「東亜の進路を論ず」対談会	本社特派員 上村雄一／岡野四郎／大賀小四郎／加賀賢蔵／津田正夫／長谷川進	109
赤色特区を行く		117
燕京街巷声音記	エル・カルメン	133
有名支那通の横顔	奥野信太郎	140
沃野と快速車	加藤悦郎	134
揚子江の青帮紅帮	村上周知	148
「東亜の進路を論ず」対談会	中山善三郎	153
		139
鼠を裏の話	岸信介／亀井貴一郎	174
屋根裏のアトリエ	和久田幸助	183
銃後だより		185
今年の稲作	丸川賢太郎	192
夏の夜の心斎橋筋	上田長太郎	190
精動について	山内逸造	192
宣撫班戦記	島崎曙海／野間仁根	194
特務兵と小孩（＊小説）	石島徳一／宮田重雄	192
従軍画 病院船にて	南薫造	222
前線兵士の手記	橋本三郎	239
従軍画 トラック行軍	高田修	240
英国陸軍の真価	池崎忠孝	245
編輯後記		249
「文藝春秋」時局増刊 二五		238
一七卷二〇号 一九三九年一月一日発行		256
犀絵	吉田謙吉	255
日本の国防的地位	末次信正	245
対支文化工作の第一歩	松村爾	249
対米外交政策確立の秋	濱野末太郎	255
岐路に立つ伊太利	田村幸策	245
従軍画 南方根拠地風景	小早川篤四郎	255
歐洲動乱に棹さすスターリン	馬場秀夫	245
攘夷の歴史の必然	御手洗辰雄	255
	津久井龍雄	245

従軍画 呉淞附近	長坂春雄	35
大いに語るオットー	本誌記者	44
現地報告	重徳泗水	42
巷の戦争談義	阿部真之助	36
徹底的排英に進む中国人	大平進一	43
巷の戦争談義	尾池義雄	40
大戦勃発と現地の感情	鶴田高明	38
大戦勃発と現地の感情	上泉秀信	46
凋落過程の白人勢力	尾池義雄	60
「歐洲大戦の軍事的考察」		61
銃眼	久保恒三／松井徳太郎／林桂／坂西良一／福山喜郎	64
大戦の予言	新明正道	67
日英会談の教へたこと	高垣寅次郎	79
朝鮮の米	上野陽一	87
砂糖・王子・牛乳	相場正佐	83
「金・不買同盟」	下中弥三郎	79
巷の戦争談義	津川秀松	95
巷の戦争談義	長坂春雄	96
「斯くあらねばならぬ新中央政権」対談会	坪田讓治	98
巷の戦争談義	中谷武世	95
興亜行進曲（＊詩）	坪田讓治	91
「物価とわれらの生活」対談会	佐藤春夫	104
従軍画 望遠の豚	栗本勇之助	111
香港排日再開	鶴田吾郎	115
複雑怪奇、新聞論調を叩く	和久田幸助	120
大戦勃発と現地の感情	佐藤京之助	132
天津水害と支那人	大賀千歳	141
国民は此項何を話してゐるか		133
実業家の私的会談	相模太郎	148
労働者と一膳飯屋風景	奥村五十嵐	149
イソテリ女性の時局認識	泉田律子	152
支那の洪水	伊集院齊	150
支那学校の洪水	北村小松	149
南洋大いに動かん	澤田謙	152
動亂歐洲の波紋を覗く	岸丈夫	166
陸驚、空中戦の実相を語る座談会		165
銃眼	大村孝／高梨辰雄／武蔵善市	179
優生政策	高野六郎	166
二十年後	本多顕彰	180
ジータクフロード線行記	オスマニエル・タスチエ	193
北京雜記	奥野信太郎	197
銃後だより		193
出版界の動き	長野英一	208

神戶元町	上田長太郎	217
兜町	弓削白弘	221
想定される歐洲戦局	木村秋生	246
陣中守り唄	池崎忠孝	242
後送部隊（＊小説）	大江賢次／福田豊四郎	219
編輯後記		245
「文藝春秋」時局増刊 二六		256
一七卷二〇号 一九三九年一月一日発行		255
犀絵	前法制局長官 南薫造	245
歐洲大戦の現地縦横談	船田文	245
ソ連の東方進出と日本	竹尾式	18
重慶政府内の和平論	中保与作	4
歐洲大戦の歴史の考へ方	今井登志喜	3
靖国九の齋す動亂歐洲第一報		24
動亂から過れ来て	矢木榮	17
戦時下の独逸国民	平山徹	27
戦時下・米独の航空機工業		3
従軍画 匪賊の襲撃	山本峰雄	44
宣戦後三週間のロンドン生活	福田眉仙	51
エイチ・ヴィヤ・レットマン		51
現地報告	鈴木良三	51
新政権運動胎動下の南京	富岡羊一	63
發展一路の済南	高岡羊一	62
英国海軍の王座危し！座談会	前田七郎	71
銃眼	橋本隆雄／加治木智博／岡部平／原田龍次／広瀬孝太	93
何故あなたは笑ふのか？	吹田順助	76
百年の悔	石井信太郎	81
兵隊と寄生虫	郷晃太郎	83
ピンバー大尉の死	坂下健一	81
仮称宣撫班	松永健哉	94
現下満洲国の諸問題	山田清二郎	98
歐洲小国群の運命を卜す		106
嵐の中に立つフィンランド	市河彦太郎	111
バルカン諸小国の運命	田村幸策	112
銃後のことども	齊藤瀧	112
従軍画 進上進上	鈴木良三	127
戦線の読書	後藤泰三	128
北滿の読書	武藤和夫	134
従軍画 絵日記を描く軍医	清水登之	142
北境・樺太	清水登之	141
巷説探訪	林房雄	153
紫金城見物記	岸丈夫	157
日本の宣伝機関とその陣容	相良徳三	142
従軍画 鯉職と御神燈	清水登之	158
「近代戦と宣伝」座談会	清水登之	154
	秋山邦雄／岩本清／藤波吉巳／林野亨／松永忠男／松浦重美／横澤光輝	171

近頃の外交	赤松祐之	51	47	43	41
感想一束	高垣松雄				
聖戦	北村太一郎				
反発せよ	河村小松				
ピーター大帝とスターリン	山下誠一				
日本飛行機工業発展の根本策	成瀬関次	100	90	89	76
国民各層の声に聴く	小島一谿	90	89	88	74
従軍画 山西省忻縣城内	布施勝治	90	89	88	74
統一白兵戦の実相	山下誠一				
国民各層の声に聴く	成瀬関次	100	90	89	76
帰還兵・街を歩く	高見澤由良	100	90	89	76
銀座街頭に佇みて	倉島竹三郎	100	90	89	76
母子寮と失明軍人寮	鷺尾洋三	100	90	89	76
母かなる大学街	伊東深水	100	90	89	76
従軍画 鎮江	鷺尾洋三	100	90	89	76
国民各層の声に聴く	今村信吉	100	90	89	76
遺族のことなど	日比野士朗	100	90	89	76
従軍画 鉄道警備	三輪晃勢	100	90	89	76
アジア英雄譚 アクバル大帝	植村清二	100	90	89	76
戦場の歌（*短歌）	石川信雄	100	90	89	76
戦車縦横談	藤田実彦	100	90	89	76
歐洲知識人の対大戦観	大賀小四郎	100	90	89	76
ドイツ知識階級と英国	織田正信	100	90	89	76
民主主義と戦争 J・M・マリー	小島一谿	100	90	89	76
従軍画 山西省忻口鎮	平田耕一	100	90	89	76
戦死したインテリ兵士の手帖から	板野厚平	100	90	89	76
浦塩艦隊撃滅—上村提督の苦心	木村毅	100	90	89	76
従軍画 楊柳の並木	高岡徳太郎	100	90	89	76
花咲く戦野—分隊長の日記（*小説）	橋本三郎画	100	90	89	76
シユベイ号自爆—批判	池崎忠孝	100	90	89	76
従軍画 昆明湖の石舫	高岡徳太郎	100	90	89	76
英仏と独逸の作戦—戦争月評	大場弥平	100	90	89	76
編輯後記					
『文藝春秋』時局増刊 三〇					
表紙（熱河承徳の少年喇嘛僧）	吉田潤撮影	100	90	89	76
日次写真 東日記録映画「揚子江より」	宮田重雄画	100	90	89	76
総力戦下の揚子江	杉村広蔵	100	90	89	76
新政府の性格と和平方針	太田宇之助	100	90	89	76
従軍画 兗州の田舎	吉田博	100	90	89	76
議会に於ける大陸通貨問題	石井知行	100	90	89	76
現地報告	エドガー・スノウ	100	90	89	76
危機に瀕する国共合作	島田晋作	100	90	89	76
東北経済漫筆					
遺族の心境を聴く座談会					

銃眼	生産力拡充の是非	本位田祥男	65	56	53	47	45	43	41
	民心培養ふべし	清水澤太郎	65	56	53	47	45	43	41
	興亜奉公日	今日出海	65	56	53	47	45	43	41
	東亞標準語—中陸中華	井上兵吉	65	56	53	47	45	43	41
	婦運兵士について	日比野士朗	65	56	53	47	45	43	41
	従軍画 青島	能勢亀太郎	65	56	53	47	45	43	41
	夢に梯子を掛ける—滿洲國の博物館運動	藤山一雄	65	56	53	47	45	43	41
	財界人の独語	森広蔵	65	56	53	47	45	43	41
	滿洲—現地報告	宮井一郎	65	56	53	47	45	43	41
	滿洲には國語が二つある	青木実	65	56	53	47	45	43	41
	戦時教へ子へ	茅野蕭々	65	56	53	47	45	43	41
	若き戦士と心きそふ	五十嵐力	65	56	53	47	45	43	41
	民族の誇り	魚坂善雄	65	56	53	47	45	43	41
	大陸言語の旅から	石橋丑雄	65	56	53	47	45	43	41
	北京今昔物語	小泉丹	65	56	53	47	45	43	41
	新中国の女性を語る座談会	瀧川政次郎	65	56	53	47	45	43	41
	遊支雜記帳	司松太郎	65	56	53	47	45	43	41
	常磐炭田地帯を往く	小泉丹	65	56	53	47	45	43	41
	相公き、がき	小泉丹	65	56	53	47	45	43	41
	華僑社会学	小泉丹	65	56	53	47	45	43	41
	滿洲—現地報告	小田桐孫一	65	56	53	47	45	43	41
	北滿開拓地見聞記	城所英一	65	56	53	47	45	43	41
	現地の胎動—現地思想	朱美保	65	56	53	47	45	43	41
	海軍砲艦隊と共に—太浦湖備前從記	吉田博	65	56	53	47	45	43	41
	緑の城（*小説）	吉田博	65	56	53	47	45	43	41
	従軍画 兗州の門	吉田博	65	56	53	47	45	43	41
	従軍画 居庸関長城記	大場弥平	65	56	53	47	45	43	41
	台児莊戦話集（*小説）	能勢亀太郎	65	56	53	47	45	43	41
	編輯後記								
	『文藝春秋』時局増刊 三一								
	表紙（八卷七号）								
	一八九四年四月一〇日発行								
	屏絵	柏原覚太郎	21	18	14	10			
	還都政權	杉村広蔵	9	4	3				
	大陸画文集 龍華寺	池田達郎	9	8	3				
	新中央政府に要望す	加田哲二	21	18	14	10			
	新政権への要望	津久井龍雄	21	18	14	10			
	思想的布陣を堅確にせよ	北崎吉	21	18	14	10			
	真の近代国家たれ	園田三朗	21	18	14	10			
	心からの経済提携へ								

弥栄村病院長の言伝て	長与善郎	32	31	24
大陸画文集 管渡口	深澤紅子	32	31	24
明日の支那と共產党	中保与作	32	31	24
歐洲大戦の軍事的判断—大歐洲大戦より観たる今大戦の判断	河野恒吉	63	56	38
藤原物価政策を衝く	丸川賢太郎	63	56	38
大陸画文集 北京の公園	足立源一郎	63	56	38
近東に於ける宿敵—ソ連と英国	アルバート・バイトン	63	56	38
ソ芬和平とソ連の動向	丸山政男	63	56	38
現地と内地	平田小六	63	56	38
対支文化工作を強力に展開せよ!	林蔵	63	56	38
銃眼	石山賢吉	90	84	75
物価政策の改善断然必要	町田梓樓	90	84	75
時と根	宮本武之輔	90	84	75
戦時体制の強化	小野賢一郎	90	84	75
停の入宮	本多顕彰	90	84	75
科学者の予言	嘉治隆一	90	84	75
敵情資料	長沼弘毅	90	84	75
南支雜記	小林茂	90	84	75
大陸画文集 軍艦の眼	倉島竹三郎	90	84	75
現地報告	結城草興	90	84	75
新東亜の日本語—井上兵吉の「東亞標準語」をよんで	泉興長	90	84	75
村の帰還兵	倉島竹三郎	90	84	75
何希甫を偲ぶ	倉島竹三郎	90	84	75
凍土紀行—滿洲の寒に於て、住民の在り方	小田桐孫一	90	84	75
東西漫画シソーラ（*漫画）	加藤悦郎	90	84	75
支那の国旗を語る	山縣初男	90	84	75
大陸画文集 釣	鳥崎鶏二	90	84	75
我が民間航空の大陸進出座談会	池田達郎	90	84	75
大陸画文集 雨花台	三木辰夫	90	84	75
笑ふ兵隊—陳述曹長の畫に	火野葦平	90	84	75
大陸画文集	深澤紅子	90	84	75
包頭郊外の丘	足立源一郎	90	84	75
陸相ホア・ペリシヤの立場	原春一郎	90	84	75
殷賑産業地帯—遼東兵士地帯を歩く	里村欣三	90	84	75
大陸画文集 陸戦隊の口	小林茂	90	84	75
冬期攻勢撃砕記（*小説）	瀨木整	90	84	75
大陸画文集 北京北海	島崎鶏二	90	84	75
鉄木真立ち上がる—成吉思汗伝その二	大場弥平	90	84	75
編輯後記				

戦時期メディアの編成と展開

Organization and Progressing of Media During Wartime in Japan
Total Contents of “GENTI HOKOKU” Published by BUNGEISHUNJYUSHA (1)

KAKENO, Takeshi